

[スライド①]

おはようございます。

10月に振徳祭・体育の部を開催しました。今回は文化の部ということで、各クラスや部活動単位、あるいは有志が集まって準備してきたことを発表する機会となります。日頃の授業や学級活動ではできない取組を期待しています。

また、今回は、二日目に「第2回オープンスクール」として中学生とその保護者への説明会も企画しました。27名の中学生とその保護者の申込みを受け付けていますので、中学生の姿をみかけた時には温かい声かけをお願いします。

[スライド②～③]

ところで、文化祭のテーマは「全力青春振徳祭～ガキの使いやあらへんで～」ではありませんね。「全力青春振徳祭～ガキの文化祭やあらへんで～」となっています。

テレビ番組のタイトルにヒントを得たのかどうかはわかりませんが、サブ・テーマの「ガキ」という言葉は、子どもを馬鹿にして呼ぶ時の言葉とされています。だいたい、15歳未満の子どもに対する呼び方と辞書に書いてありました。

[スライド④]

「ガキ」は漢字ではこのような字を書きます。仏教やバラモン教等に古くから伝わる資料にはこのような姿が描かれています。「餓」は空腹で苦しむことを意味しています。

[スライド⑤]

餓鬼は、醜い心でこの世を生きた人が死後に向かう世界の住人です。アジア発祥の宗教では、宇宙はこのように構成されており、生まれ変わりしながら、この6つの世界を行ったり来たりすると言われています。

[スライド⑥]

ところで、醜い心とは「自分さえ良ければいい」、「みんな、自分のために

尽くしてほしい」という自分のことだけを中心に考える心、「あれも欲しい、これも欲しい」と止まるところを知らない欲の心です。

インドやネパールから伝わった教えを中国で学んだ日本人が「餓鬼」という名前を付け、その後、何でも欲しがり、独り占めをしようとする子どもに対して「餓鬼のようだ」と戒めるようになったのが始まりのようです。これには諸説あります。

[スライド⑦～⑩]

日南振徳高校の振徳祭はガキの文化祭ではないということですので、「餓鬼」の心とは反対に「自分だけが楽しむのではなく、周りの人を楽しませたい」という心、自分以外の人に「恵み施す心」で過ごしてほしいと思います。

その精神は、本校の校訓であり、学校の名前である「振徳」そのものです。まさに、「振徳祭はガキの文化祭やあらへんで」ということです。

小学生にもなっていない小さな子どもでも、「自分中心でないと気が済まない」という心ではなく、基本的には優しい心で他人に接しようと努力します。高校生である皆さんは、努力するのではなく、当たり前他人に優しく接してください。

[スライド⑫]

今日と明日の2日間、テーマに相応しい振徳祭・文化の部にするとともに、日頃の学校生活では味わえない時間を過ごしてほしいと思っています。

そして、振徳祭実行委員長をはじめとする生徒会役員の皆さん、今日まで準備に当たってきた生徒の皆さんの頑張った成果が表れるよう祈念して、私の挨拶とします。

令和4年11月12日

日南振徳高等学校

校長 山下 勉